



檜山小学校3年 藤江希乃花

私は、六年生になって、言葉は人を傷つけることも、傷ついた人を助けることもできることが分かりました。
六年生になってすぐ、陸上大会のクラス対こう長縄大会で優勝できるように練習を始めました。ある日、リーダーを決めることになりましたが、

【小学校高学年の部 特選】
言葉の力
莊原小学校 六年
和田守 結

だれも手を挙げませんでした。私は、不安もあったけど、「がんばってみよう」と思って勇気を出して立ち上がりました。練習が始まり、最初はなかなか続けてとぶことができませんでした。でも、何回も何回も練習して、とべるようになってきました。もつと、もつととべるように、休み時間にも練習するようになりました。そんなある日、風が強くて、なかなかとぶ回数が増えず、みんなの集中力がなくなつて

きていました。その時、「風も強いし、やっても意味ないと思う。やめようよ。」と友だちが言いました。私は「本番も風が強いかもしれないから練習しようよ。」と言いました。すると、「は？こんなんだつたら遊んだ方がいい。」と言って、帰って行ってしまいました。私は、残ってくれた友だちも話してばかりいるので、「やる気のない人は、やらんでいい。やる気のある人だけでやろう。」と言うと、「意味分からん。」と誰かが言いました。私はくやくしてなみだが止まりませんでした。すると「大丈夫？」「また一緒にがんばろうね。」と話しかけてくれる人がいて、私はとてもうれしくて、もう一度がんばろうと思うことができました。

私が言われたらと考えると腹がたつたと思います。それならどう言えばよかったのだろうと考えました。私は涙が止まらなくなった時、友だちにかけてもらった言葉を思い出しました。「一緒にがんばろう」と前向きな言葉をかければ、みんなががんばることができたかもしれないと思いました。
次の日から、クラスのみなが協力して何回も何回も練習しました。全員で声をかけ合い、がんばって優勝することができました。とてもうれしかったです。
自分がつらかったときに友だちのはげましがとてもうれしくて、言葉には大きな力があることが分かりました。今までは、はずかしくて声をかけることができなかつたけど、今度からはなやんでいる人がいたら、声をかけてはげましたいと思います。また、自分がなにげなく言った言葉でも相手を傷つけてしまっていることもあるかもしれません。だからいつでも、相手の立場に立つて考えたいと思います。

出雲市教育委員会では、人権尊重の重要性、必要性について理解を深め、豊かな人権感を身につけることを目的に人権作文・ポスターコンクールを実施しています。
今年度も市内小・中学校児童生徒のみなさんから375点の人権に関する作文とポスターが寄せられました。その中から特選作品の一部を紹介します。自分の日頃の言葉や行動を振り返る一助にしてほしいと思います。

平成25年度 出雲市人権作文・ポスターコンクール

みちしるべ

第125号

人権・同和問題啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議





斐川東中学校3年 若槻春名



高浜小学校6年 宮本歩生



北浜小学校5年 渡部康太郎

人権・同和教育基礎講座

同和教育をはじめとするあらゆる差別の解消に向けて、年4回シリーズで講座を開催しています。今回は、12月7日(土)に市役所で行いました第3回目を紹介します。

人権・同和教育基礎講座 第3回

演題 「詩が開いた心の扉」

～空が青いから白をえらんだのです～
奈良少年刑務所詩集

講師

〈作家〉 寮 りょう 美千子 みちこ さん

講師の寮さんは、作家として絵本、童話、詩、小説など幅広い分野で活躍される一方、奈良少年刑務所の更生教育である「社会性涵養プログラム」の講師として「童話と詩」の授業を受け持ち、その中で生まれた受刑者たちの作品を詩集として編集されています。

この詩集のタイトルの「空が青いから白をえらんだのです」というのは、「つらくなったら空を見て。そこにわたしがいるから。」と言い遺して亡くなった母親を思って受刑者の一人が書いた一行詩からきています。

寮さんは講演の中で、

「受刑者たちの多くは、罪を犯す加害者になる前に、激しい貧困や親からの虐待、発達障がいで見んなと歩調が合わせられずいじめられるなど、被害者であった子たちがほとんどです。犯罪は、親からも、地域社会からも、学校からも、友だちからも、まともな愛情を受けたことのない、心がすさんで心を閉ざしてしまっている子ども達の不運な一つの表現だと言えると思います。

その子たちが、授業の中で、詩を書いて朗読したり、感想を述べることによって、感情に変化が生まれてきます。自分は本当にしようがない人間だと思っていた彼らの中に小さな自信が芽生えて、表情が生まれ、会話が生まれ、みんなと協調できる子になってくるのです。否定されて否定されてきた子たちに『反省しなさい』だけでは伝わりません。情緒の耕しが必要です。心を開くことで、初めて自分の気持ち分かるようになり、相手の気持ちも分かるようになる。そして自分がどんなにひどいことをしたのか初めて気づき、償いの気持ちを持つ。それで心からの更生ができるのです。人間は、人の輪の中で育っていくのです。受けとめられた、受けとめてもらったと実感することが大事です。人間は、きちんと人に話を聞いてもらって受けとめてもらったら、ちゃんといやされて強くなる存在なのです。つまり彼らはそれだけの受けとめを刑務所に入るまでされてこなかった。学校でも家庭でも

地域社会でも、その受けとめがされていたら、ここまでの犯罪者にならずにすんだかもしれないと思います。」と熱く語られました。

この講演を通して、家庭や学校、地域社会などあらゆる場面において、人と人とのつながりがいかに大切かということを考えるよい機会となりました。



【参加者の声】

*「人は人の輪の中で育つ。人は受けとめられるといやされ強くなる。」に共感しました。

*自分も大人になっているのだけれど、それでもどこかで、子どものような淋しさを感じることはありません。誰でも認められることで満たされ、幸せに生きられる子育ての大切さを改めて感じました。

*人権とは、その人をそのまま受け入れる、その人を認める、それによっていやされ、自己肯定感に繋がるといった具体的な毎日の営みだと改めて感じられました。

*迫力あるお話を聞き、心を動かされました。微力ながら自分のできることを少しでも手がけていけたらと思います。

*熱く語っていただき、どんどん心の中に入ってきました。共生社会の実現をそれぞれの立場でしっかりしていかなければと思いました。